

[番組名] 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

[放送日] 2013年7月12日

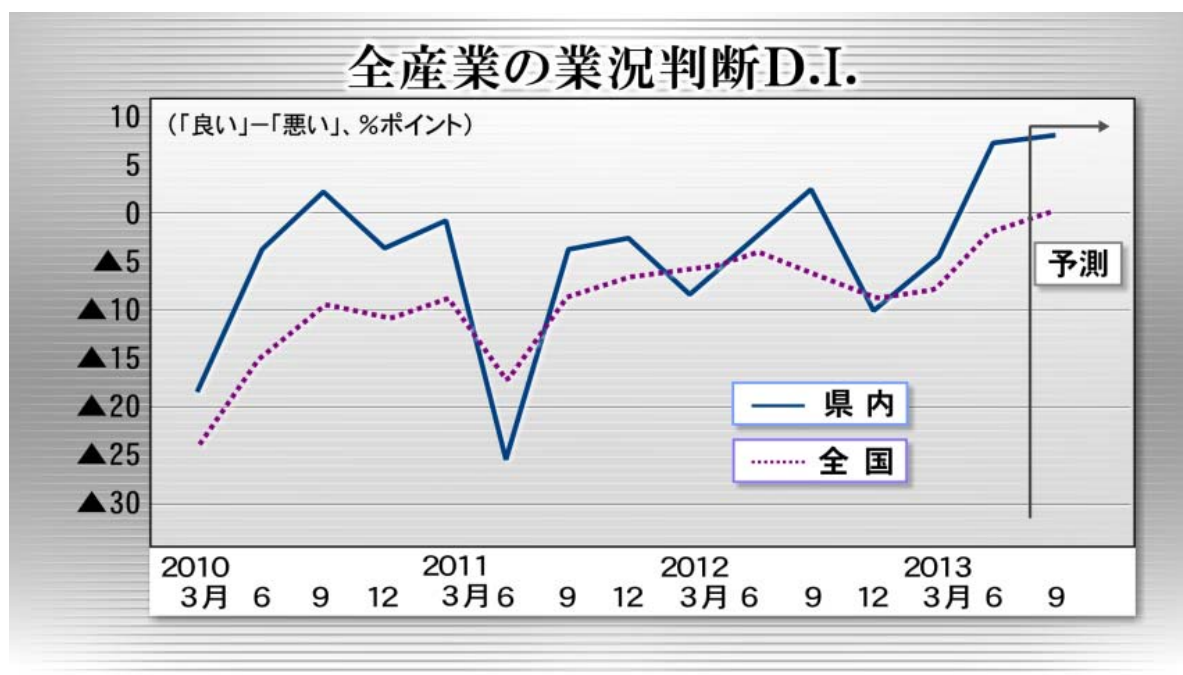
[テーマ] 持ち直しが続く県内経済

(キャスター) 『プラスオピニオン』のコーナーは、日本銀行前橋支店長の相良雅幸さんに、『持ち直しが続く県内経済』というテーマでお話をうかがいます。よろしくお祈りします。

(相良支店長) よろしくお祈りします。

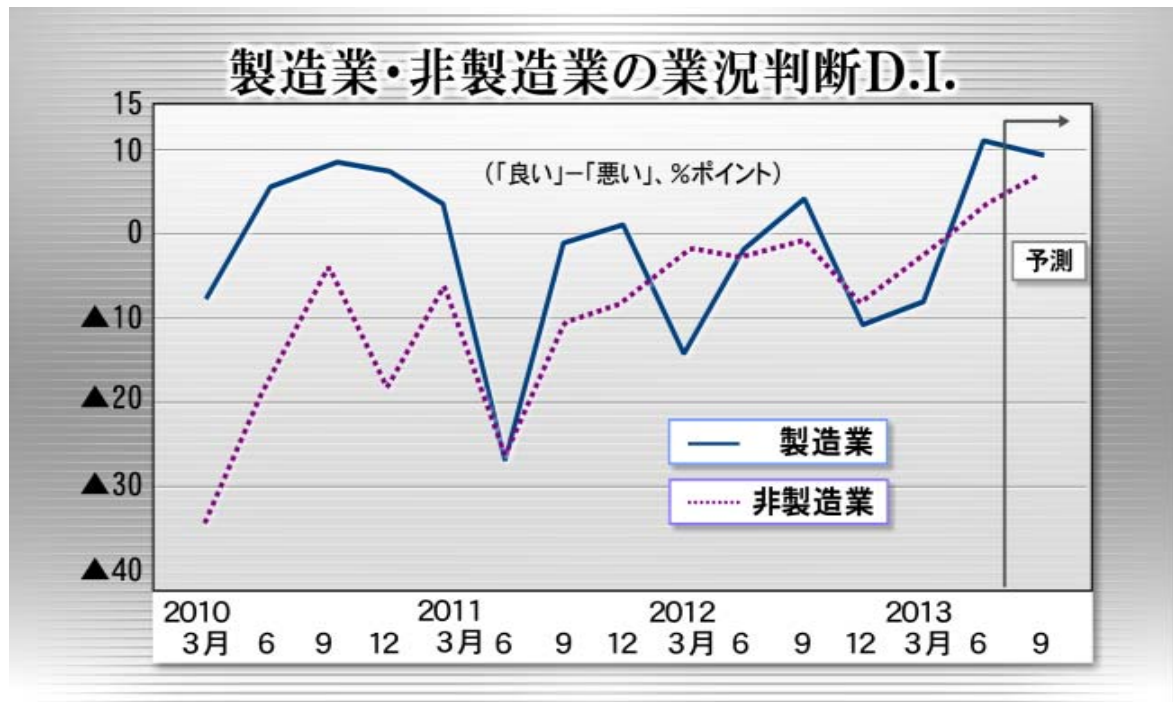
県内経済は、今年の春頃から持ち直しの芽がみられるようになり、その後、持ち直しの芽が様々な分野に広がってきました。こうした動きを、6月に実施し、先週公表した「企業短期経済観測調査」、いわゆる日銀短観の結果からみてみましょう。

まずは、「業況判断D.I.」をご覧ください。



(相良支店長) このD.I.は、業況が「良い」と答えた企業の比率から「悪い」と答えた企業の比率を引いたものです。「良い」と答えた企業が多いほど、数値は高くなります。実線が県内の動き、点線が全国の動きです。今回の調査では、全産業が+7と、前回の▲5から改善し、プラスに浮上しました。改善は2期連続、プラスになったのは昨年9月調査以来9か月ぶりのことです。先行きは、+8と改善が続く予想です。なお、全国のD.I.も、前回の▲8から今回▲2、先行きゼロと徐々に改善しています。

(相良支店長) 次のフリップをご覧くださいたいのですが、こうした改善は実線の製造業、点線の非製造業ともにみられます。いずれも、足許プラスとなり、先行きもプラスが続くとの予想です。ちなみに、全産業、製造業、非製造業の全てがプラス転化したのは、リーマン・ショック前の2007年12月調査以来のことです。



(キャスター) 県内の業況判断が2期連続で改善し、しかもプラスになったのは、どのような理由からでしょうか。

(相良支店長) はい。その点については、D. I. が改善傾向にある業種をもとにご説明します。次のフリップをご覧ください。

業種別の業況判断D.I. 「良い」―「悪い」、%ポイント

		13年3月	13年6月	9月(予測)
製造	輸送用機械	35	40	45
	はん用機械	▲50	0	25
	電気機械	▲32	▲16	5
	鉄鋼	▲33	0	13
	非鉄金属	▲75	▲25	▲25
非製	建設	0	15	20
	運輸	0	20	20

(相良支店長) まず、製造業では輸送用機械やはん用機械、電気機械、鉄鋼や非鉄金属などで業況が改善しており、先行きにかけては多くの業種でプラスまたはゼロとなります。製造業の「業況判断D. I.」が改善している背景には、米国経済が堅調を続けていることや最近の円安効果などが輸出企業にプラスの影響を与えていることが挙げられます。業種別にみると、自動車とその関連産業である輸送用機械や鉄鋼・非鉄金属などでは、業況の改善が続いています。また、電気機械では、自動車関連に加えてIT関連の受注が増加していることから、改善傾向にあります。さらに、一般機械の中のはん用機械にも、改善の動きが出てきています。

次に、非製造業では建設や運輸などで改善しています。建設は新政権のもとで策定された緊急経済対策が公共投資として執行され始めたこと、運輸は経済の持ち直しを背景に荷動きが徐々に活発化していることなどが、業況改善の背景となっています。先行きもこうした改善が続くと企業の予想ですので、企業のマインドは、当面、良好な状態が続くと見込まれます。

(キャスター) 企業の事業計画にも、そうした良好な企業マインドは表れているのでしょうか。

(相良支店長) はい。その点は、今年度の事業計画でご説明します。

2013年度の事業計画

前年度比 %

	売上高	経常利益	設備投資
全産業	2.3	3.8	2.8
製造業	4.5	14.0	1.9
非製造業	▲0.2	▲2.8	4.5

(相良支店長) 全産業の2013年度、つまり今年度の事業計画は、売上高の前年比が+2.3%、同じく経常利益が+3.8%と増収増益となる計画です。また、前回調査では前年比マイナスとなっていた設備投資も、2年振りにプラスとなる計画です。とくに、製造業では、売上高の前年比が+4.5%、同じく経常利益が+14.0%と前向きな計画です。製造業が想定している今年度の為替レートは、現状よりもやや円高の90.01円ですので、現状の為替相場が続けば、収益がさらに増加すると考えられます。

もともと、非製造業の事業計画は、若干ながら減収減益の見通しと、慎重です。これは、非製造業には、公共投資の恩恵を受ける建設などがある一方で、円安のマイナスの影響を受けている業種が少なくないからです。

このように、事業計画は製造業と非製造業で異なる動きとなっていることから、今後の変化をよく見ていく必要があると思っています。

(キャスター) 非製造業の事業計画が慎重な点は、やや気になる場所ですね。具体的な業種やその背景について、もう少し説明していただけませんか。

(相良支店長) はい。それでは、非製造業の業種別の業況判断D. I. と価格判断D. I. の動きを用いて、具体的にみてみましょう。次のフリップをご覧ください。

非製造業・業種別の業況判断D.I.

「良い」―「悪い」、%ポイント

	13年3月	13年6月	9月(予測)
卸 売	▲40	▲40	▲20
小 売	0	▲14	▲7
電気・ガス	29	14	14

(相良支店長) 非製造業の業況判断D. I. をみると、業況が低迷ないし悪化している業種がみられます。具体的には、卸売や小売、電気・ガスなどです。これらの業種に共通する点は、原材料や仕入商品を輸入しているため、為替相場の影響を受けやすいということです。

そこで、次のフリップで非製造業の価格判断D. I. をみてみましょう。

非製造業の価格判断D.I.

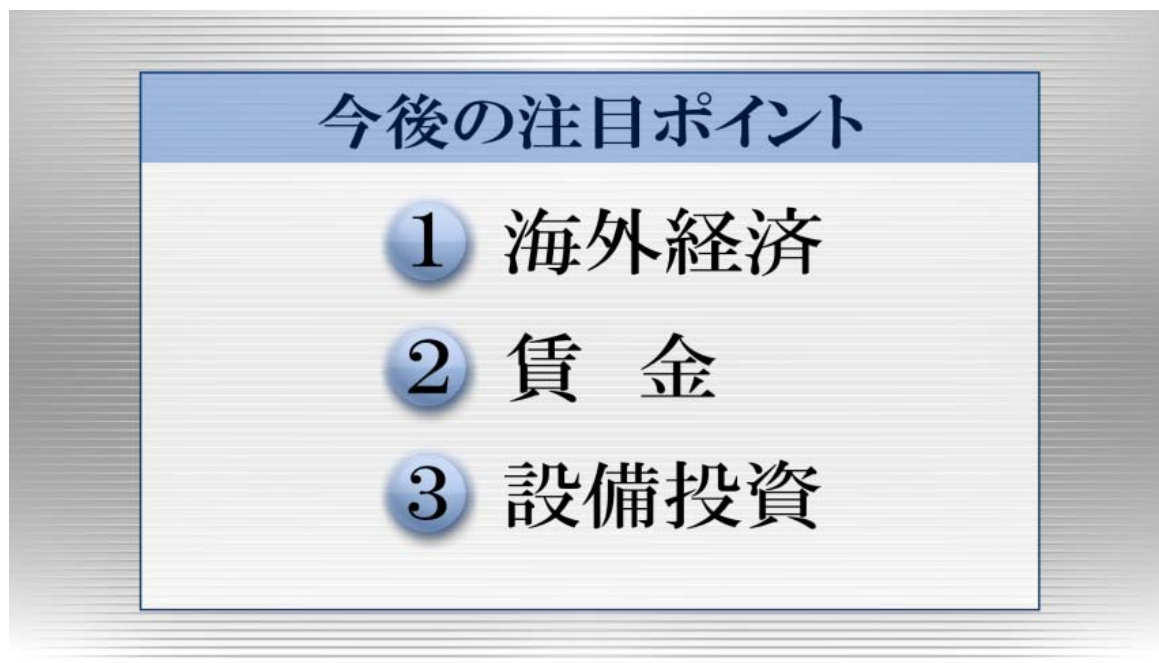
「上昇」―「下落」、%ポイント

	13年3月	13年6月	9月(予測)
仕入価格	28	29	36
販売価格	▲4	▲3	▲3

(相良支店長) これは「上昇」と答えた企業が多いほど、数値が上がります。まず、仕入価格の判断D. I. は、前回の+28から今回+29、先行き+36と、上昇を見込む企業が着実に増えています。これは、最近の円安やエネルギー価格の上昇による輸入物価の上昇を反映していると思われます。一方、販売価格の判断D. I. は、前回▲4から、今回▲3、先行き▲3とほとんど変化がみられません。D. I. が示すように、販売価格の値上げができにくい場合には、仕入価格の上昇分だけ収益が悪化すると考えられますので、為替相場の影響を受けやすい業種についてはよくみていく必要があります。

(キャスター) 最後に、今後の景気をみていくうえでの注目点としては、どのようなことがありますか。

(相良支店長) 注目すべきポイントについて、次のフリップにまとめてみました。



(相良支店長) まず、海外経済の動向です。県内企業の輸出は、米国経済が堅調に推移していることに加えて円安の影響から着実に増加しています。ただ、中国経済はこのところやや減速感が強まっているほか、欧州経済も長期にわたって低迷が続いています。県内経済は輸出の影響を受けやすいだけに、海外経済の動向については目が離せないポイントです。

第2に、賃金の動向です。製造業を中心に、企業収益は改善の方向にあります。ただ、企業収益が増えた分だけ、賃金が増えているというわけではありません。とくに、中小企業では、大企業ほど収益の改善が進んでおらず、その結果、賃金は伸び悩んでいます。今後、物価が上向くと見込まれる中で、賃金の動向が大いに注目されます。

(相良支店長) 第3に、設備投資の動向です。企業収益の改善を背景に、設備投資計画が前向きになっています。政府の成長戦略によって、設備投資が今後どこまで伸びていくのか、よくみていく必要があります。

(キャスター) 今日は、『持ち直しが続く県内経済』ということで、お話をうかがいました。ありがとうございました。

以 上